

大賞

(子どもの部)

「たいせつなこと」を読んで

尾久西小学校 六年

氷室 明希実

柳田先生こんにちは。わたしは「たいせつなこと」という本を読みました。一番気になったところは、「あなたはあなた」。そして、たいせつなのは「あなたがあなたであること」というところです。

まず、「わたし」って何だろう。

わたしは小学六年生です。わたしはピアノが好きで上手に弾くことができます。わたしは小さい時からぬいぐるみをたくさん持っていて、大好きです。わたしはハンドメイドが、好きです。つくるのが楽しいからです。わたしのがんばっていることは、勉強と料理です。最近いろいろな料理に挑戦

しています。わたしは家族のお手伝いをしています。洗濯物を干したり、食器を洗うこともできるようになりました。大人になったとき困らないように練習しています。わたしの夢はいろいろありますが、一番は学校の先生になることです。そのために勉強を頑張っています。まだまだ「わたし」はいろいろありますが、これが「わたし」かなと思います。

「わたしらしくいられないとき」を考えた時、国語で戦争の話の勉強をした時のことを思い出しました。自分が戦争の中にいることを想像してしまって、家族と離ればなれになることや、いつ死ぬかを考えてしまいやなぎもちになって、体から力が抜けてソファァーに、たおれてしまうくらいでした。もし、日本でまた、戦争が起これたら、今までの

生活もできないし、これからさきの将来のことも考えられなくなります。それは、わたしがわたしらしく、いられなくなる、ということです。

昔のこととっていた戦争が、今ウクライナで起こっていることを知ってとてもつらい気持ちになりました。

わたしがわたしらしくいるためには、今も、これからさきの未来でも戦争もなく平和な世の中であることが必要です。

誰もが自分らしく生きられる世の中になるにはどうしたらいいかわかるように、これからももっと勉強していききたいです。

柳田邦男先生からのメッセージ

〈大賞〉

氷室明希実さんへ

「わたし」って何だろう」という疑問は、幼いころには抱かないですよ。でも、小学校の中学年から高学年くらいになると、何かの機会にふとそういうことを考えるようになるのです。それは、こころが成長するにつれて、いろいろなことに関心を持つようになるからです。

氷室さんは、『たいせつなこと』という本の中で、「たいせつなのは「あなたがあなたであること」と書くかれているところに、こころを惹かれたとのこと。「あなたがあなたであること」とは、言い換えれば、「わたし」がわたしであること」ですね。

そこで、「わたし」って何だろうと、深く考えを進めた。このようにわかりきっているようで、意外

によくわかっていないことについて、しっかりと考えてみるというところがまえは、とても大切なことです。学ぶとか勉強するということのいちばん基本になることです。

そこで氷室さんは、毎日の生活のなかで自分がしていること、好きなこと、挑戦していること、大人になる準備もこころがけていること、将来の夢などを、次々に挙げて、へこれが「わたし」かな〜と、しっかりと書きました。とても具体的に、あなたがどんな小学六年生の少女なのかが、よく浮かび上がってきました。自分がどのような少女であるかを、このように具体的に表現できることは、なかなかとらえにくい「自分」というものを、多面的に見つめる力を持っていることを示すものです。

そればかりでなく、「わたしらしくいられないと

き」、つまり「わたしがわたしであること」が破壊されてしまうこともありうるとして、その最悪の場合である戦争の恐ろしさにまで思いを広げているところは、考え方がとてもダイナミックなので驚きました。しかも抽象的に戦争のことを考えるのではなく、今世界を揺るがしているウクライナでの戦争の現実を身近に引き寄せて、戦争は「昔のこと」ではないと真剣に考えている。

「誰もが自分らしく生きられる世の中になるにはどうしたらいいか」——この問いかけを忘れないで、しっかりと勉強してくださいね。